

海外需要には明るさがみられる一方、 県内需要は横ばいが続く



神奈川県内景気

- 財の輸出に下げ止まりの兆しがみられる。インバウンド消費は拡大基調継続。
- 6月の製造業の生産活動は方向感を欠いた動きとなった。
- 6月の実質賃金（家計の購買力）は前年割れ。しかし、今春の賃上げの効果で名目の所定内給与は高めの伸び率で推移。
- 個人消費は全体として横ばい圏内で推移。物価高の継続で方向感の出にくい展開に。

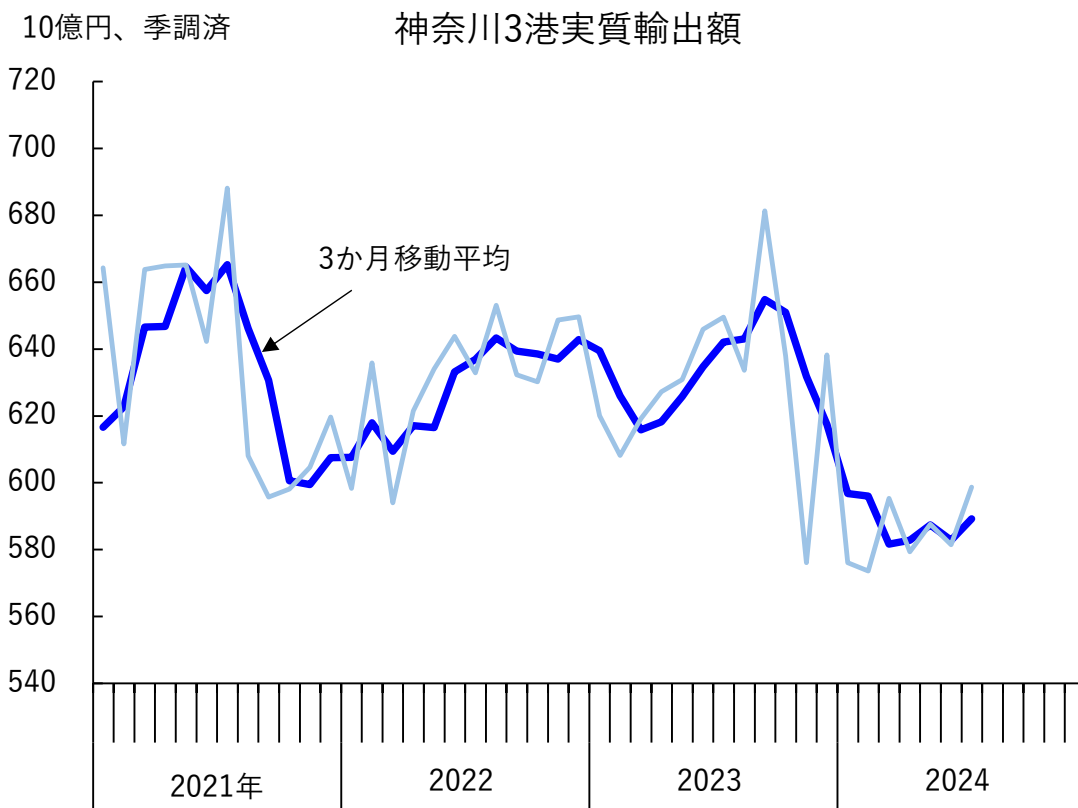
本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取り扱いいただきますようお願いいたします。



浜銀総合研究所

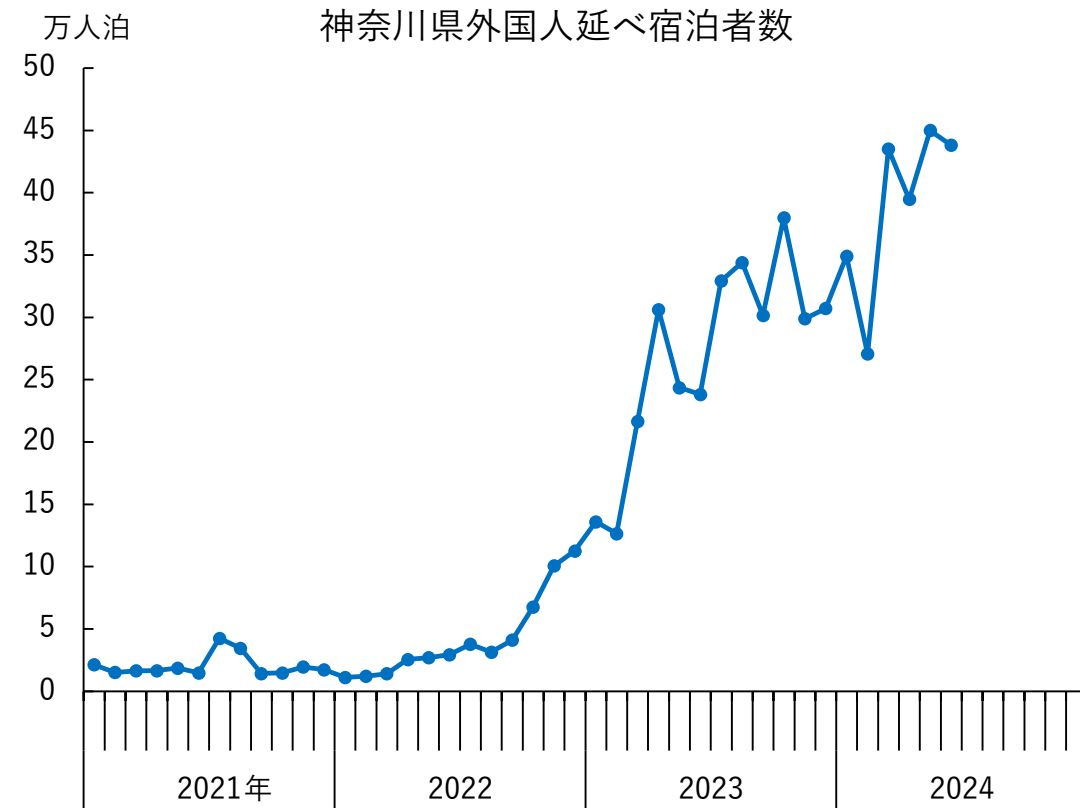


- 財の輸出は前月に続き下げ止まりの兆しがみられる。神奈川3港（横浜港、川崎港、横須賀港）の7月の実質（≡数量ベース）輸出は前月比増加。財別に3か月で均してみると、一般機械がなお弱含んでいるものの、輸送用機器には持ち直しの動き、化学製品には下げ止まりの動きがそれぞれみられている。
- 神奈川県インバウンド消費は拡大基調にあるとみられる。6月の外国人延べ宿泊者数は、コロナ禍前の2019年同月水準をおよそ8割上回っており、好調である。



注：季節調整は当社で施した。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より浜銀総研作成



注：2024年1、2、5月の値は誤差が大きいことに注意が必要。

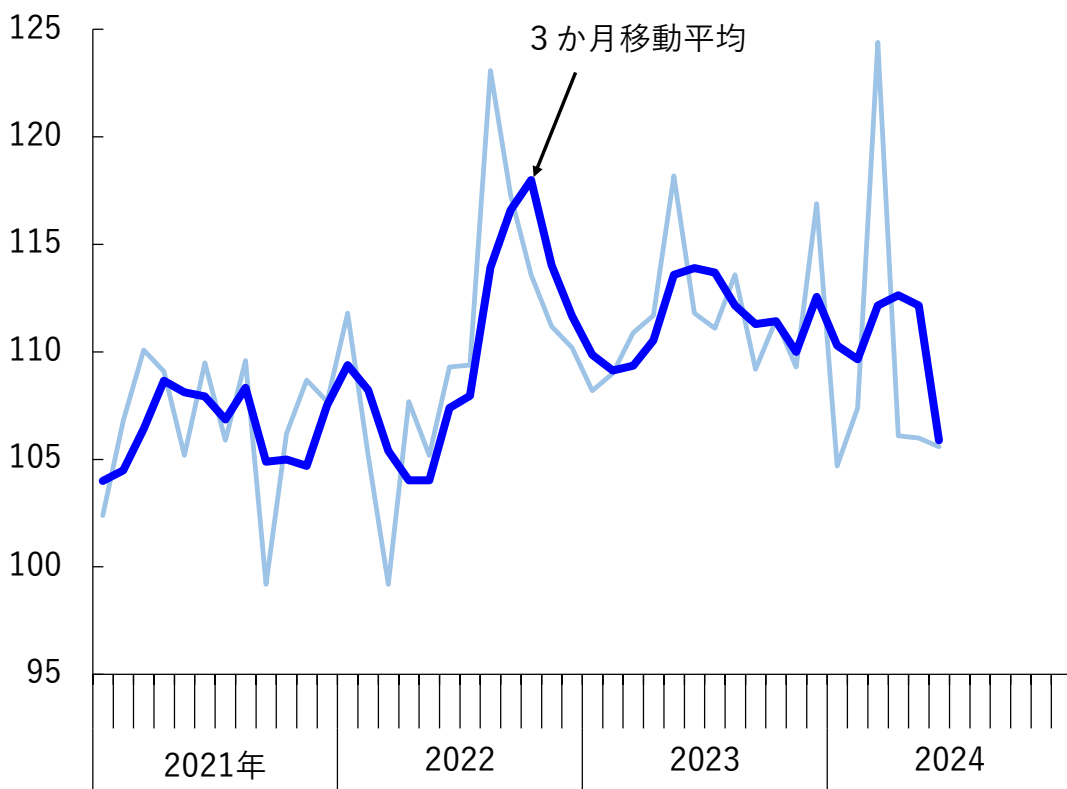
出所：観光庁「宿泊旅行統計」



- 6月の工業生産指数は前月比-0.4%となり、方向感を欠いた動きとなった。主要業種別では、輸送機械（同-9.4%）や食料品・飲料（同-3.4%）が低下した一方、生産用機械（同+28.8%）や化学（同+3.1%）が上昇した。
- 主要4業種以外では、今年に入り大きく上昇してきた電子部品・デバイス工業（同-12.4%）の低下が目立った。ただ、半導体市場の回復は継続しており、同業種の上昇基調は変化していないとみている。

製造工業生産指数（神奈川県）

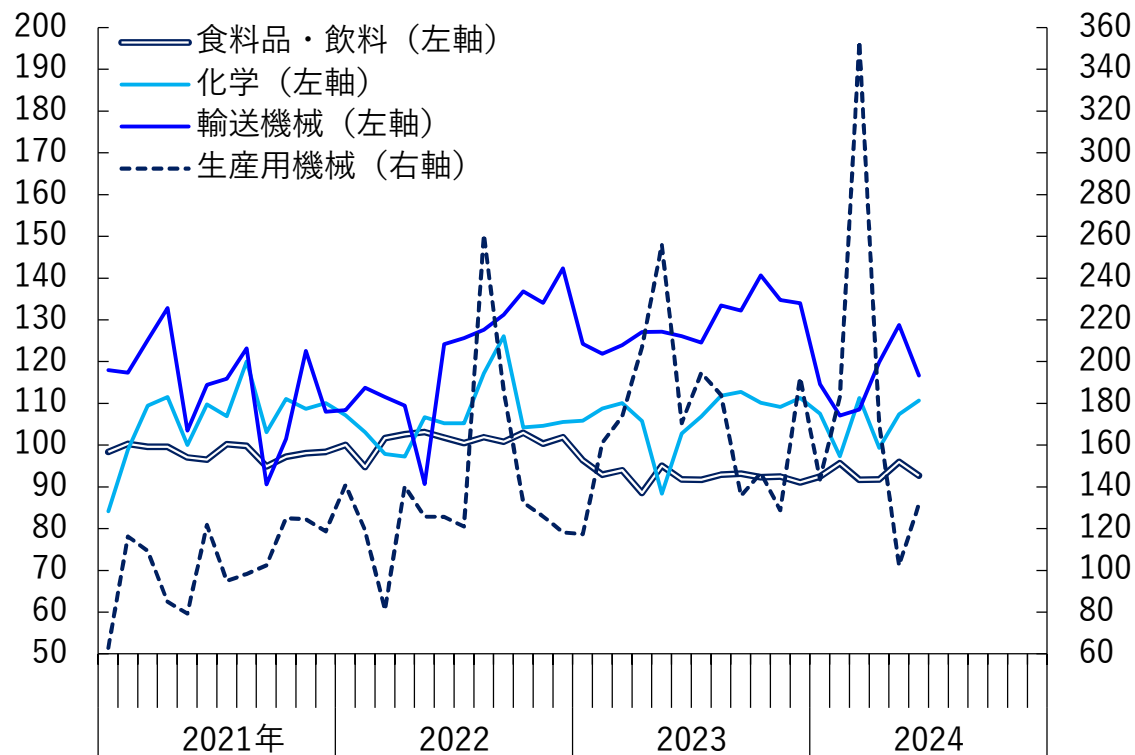
2020年=100、季調済



主要4業種の生産指数（神奈川県）

2020年=100、季調済

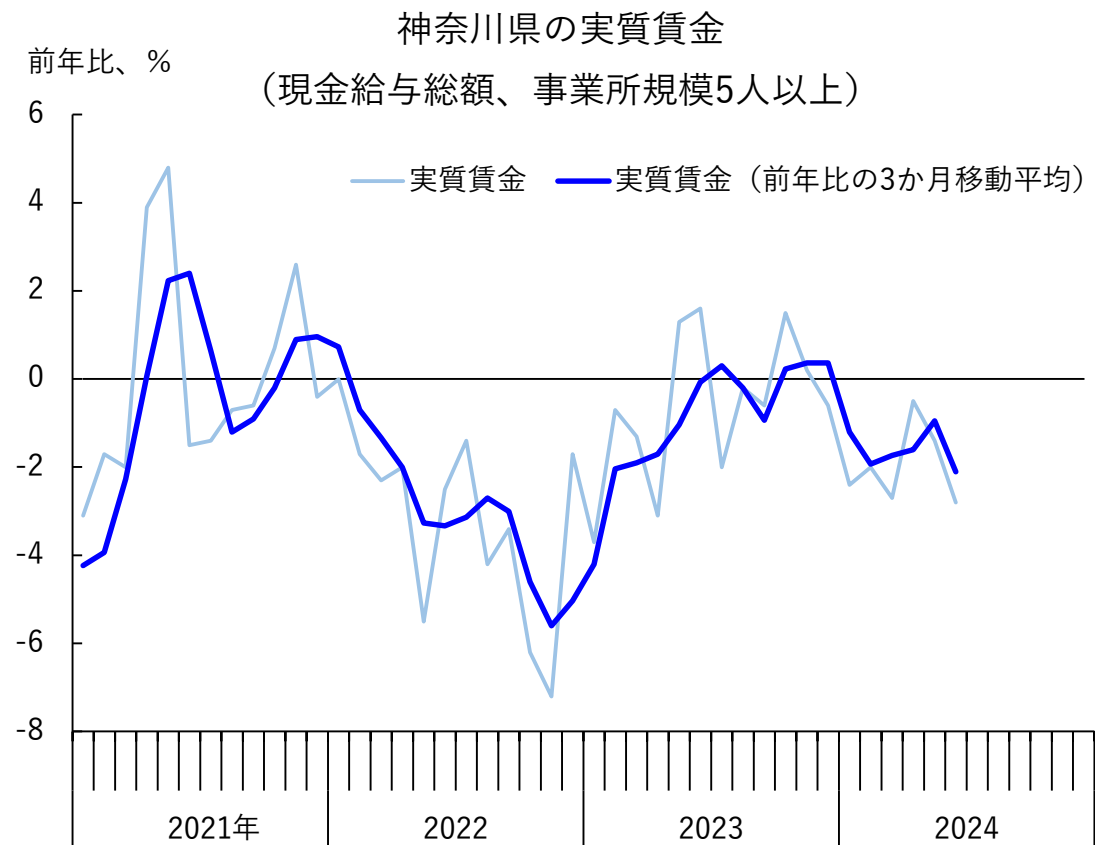
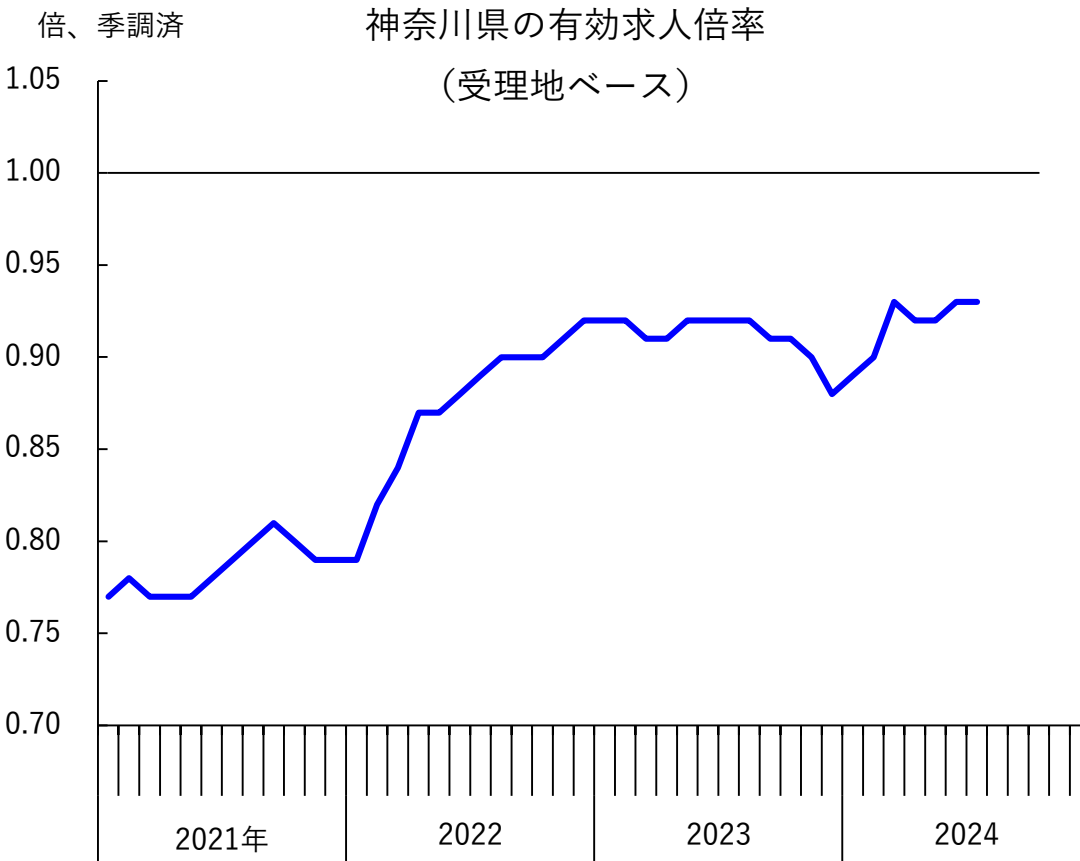
2020年=100、季調済



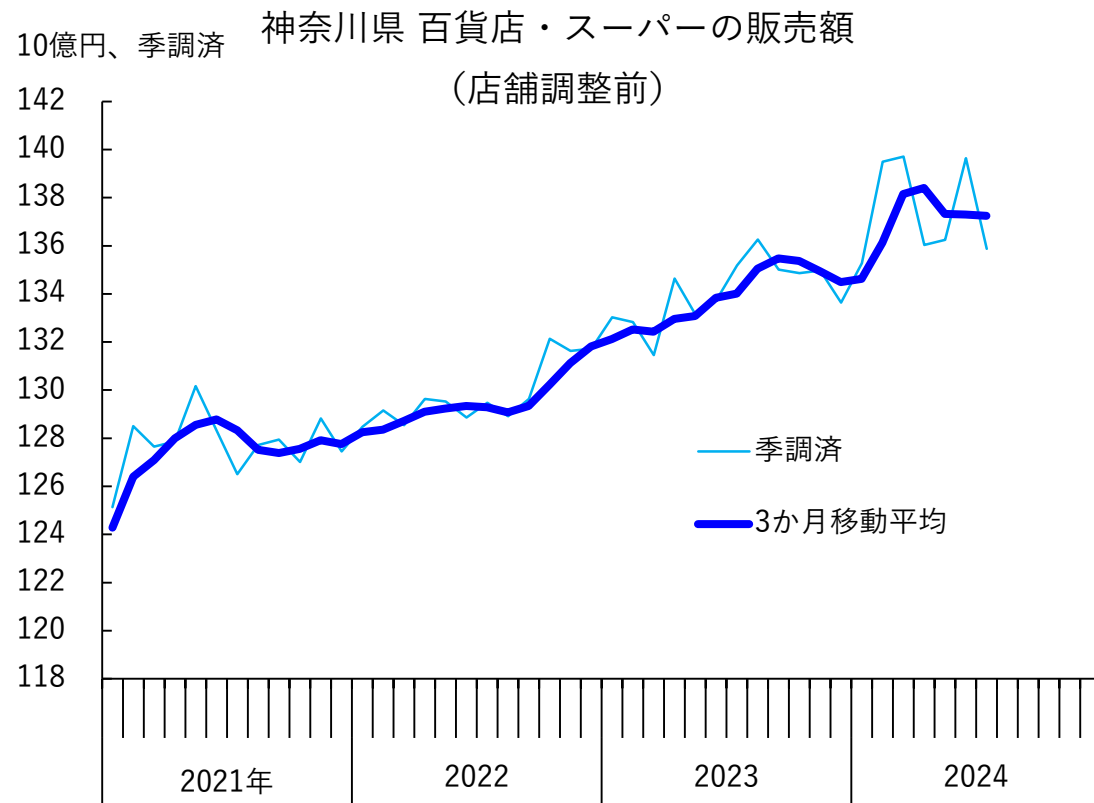
出所：神奈川県「工業生産指数」より浜銀総研作成

出所：神奈川県「工業生産指数」

- 7月も県内雇用情勢は横ばいの動き。7月の神奈川県の有効求人倍率（受理地ベース）は0.93倍で、前月と変わらなかった。
- 家計の購買力を示す実質賃金（事業所規模5人以上）は、6月に前年比-2.8%となり、引き続き前年を下回った。ただ、名目賃金上昇率を詳しくみると、所定内給与（基本給に相当）が、事業所規模5人以上で同+1.8%、事業所規模30人以上で同+3.6%と高い伸びが続いた。

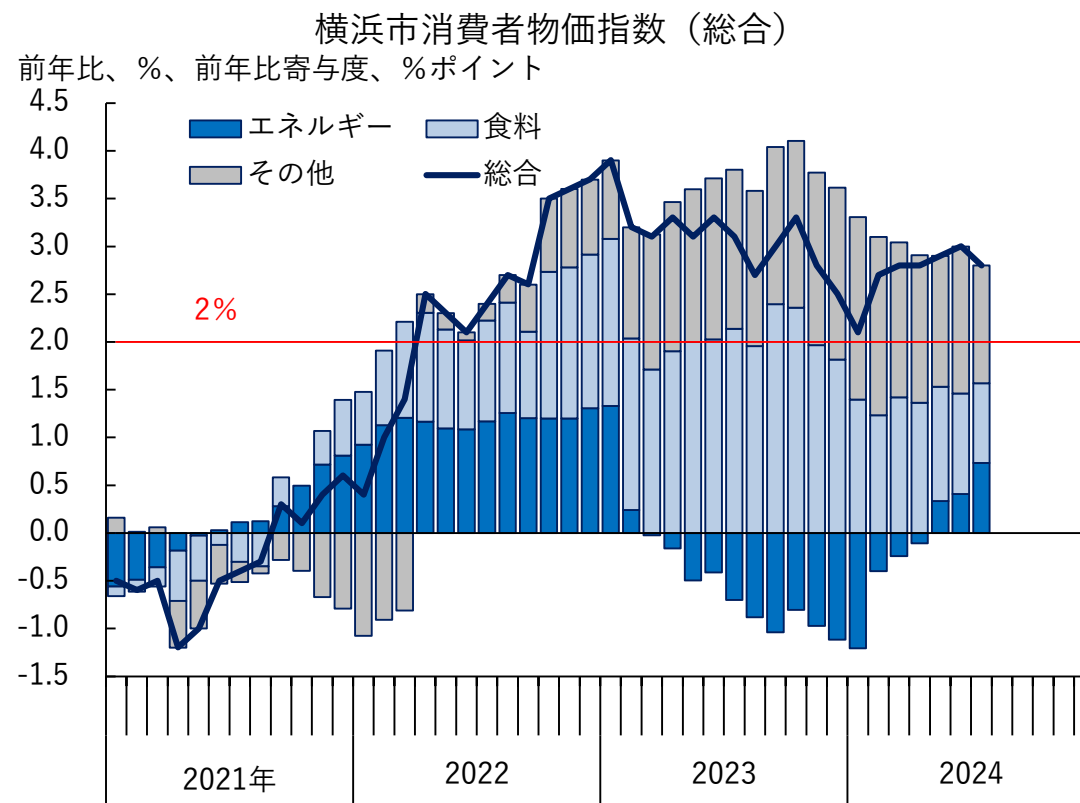


- 財の消費は横ばい。7月の百貨店・スーパーの販売額は前月比-2.7%となった。一方、乗用車販売は、1~3月期に認証不正問題の影響で落ち込んだものの、このところ回復基調にある（神奈川県自動車販売店協会、全国軽自動車協会連合会資料を参照）。
- サービス消費も横ばい圏で推移した模様。7月の内閣府「景気ウォッチャー調査（南関東）」によると、業況の判断を横ばいとする飲食店や旅行代理店のコメントが多かった。猛暑については、タクシーの業況にプラスの効果があった一方、飲食店ではマイナスの影響がみられるケースもあった。
- 7月の横浜市の消費者物価指数（総合、前年比）は前年比+2.8%と、前月に比べてやや鈍化。食料の伸び率縮小が明瞭化した。一方で、エネルギーの伸び率は一段と拡大した。



注：季節調整は当社で施した。

出所：経済産業省「商業動態統計」より浜銀総研作成



注：その他は総合からエネルギー、食料を差し引いた残差。

出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成



横浜銀行グループ

浜銀総合研究所



2024年9月4日
調査部 副主任研究員
白須光樹